

国語力を高めるには、教科書に出ている著者の作品を何冊かじっくりと読むのが一番効果的。

あとは、教科書の朗読と書き取りです

開倫塾

塾長 林 明夫

1. 国語力は、言語力、言葉の力です。国語を学ぶ目的の一つは、言語力、言葉の力を身に着けることにあります。

2. 国語力、言語力とは、「読む力」「書く力」「話す力」「聞く力」の4つの力です。この基礎に「考える力」があります。



3. 学校の教科書は、その時代、その時代の特色に合わせて、言語力、言葉の力を身に着けるのに最もふさわしいものですから、安心して学ぶことができます。

4. ただし、学校で国語の先生の授業を聞いているだけで十分な国語力、つまり、言語力、言葉の力が身に着くかと問われれば、十分ではない、まだまだやるべきことがあるとお答えせざるを得ません。

5. 国語力を身に着けるために、学校で国語の先生の授業を受けるほかにやったほうがよいことは何か。3つあります。

6. その第一は、学校の教科書を「朗読」し、「書き写すこと」です。



(1) 「教科書の朗読」とは、「教科書を声を出して読むこと」です。教科書の

作品の筆者になりきって、一語一語、ゆっくりと、ていねいに、心を込めて声を出して、聴衆に語りかけるように読むことです。上手に読むことです。

聞き手である聴衆が教科書の作品を手元に持っていなくてもわかるように、わかりやすく読むことです。

「学校の教科書の朗読」は、言語能力の一つである「話す力」を大きく育てます。

(2) 「教科書を書き写す」とは、「今、学校で習っている作品の全文を、ノートに一行おきにていねいな文字で書き写すこと」です。国語の教科書は縦書き（たてがき）ですので、「国語のノートは縦書きで書き写すこと」をお勧めします。

「国語の教科書を書き写し」は、言語能力の一つである「書く力」を大きく育てます。

7. その第二は、「学校の教科書に出ている著者の作品を何冊かじっくりと読むこと」です。

(1) 「教科書に出ている作品」は、その作品の「全文」とは限りません。教科書にはページ数の関係で全部の文章を掲載できないため、作品の一部しか載（の）っていない場合があります。そこで、「削除された部分も含めて、作品の全文を読むこと」を、まずはお勧めします。

例えば、孔子の教えを弟子たちがまとめた「論語」は、全部で 499 章あります。学校の教科書に出ているのはそのうちのごく一部です。短い文章ばかりですので、全部読んでしまいましょう。わかりやすい現代語訳もたくさん出ています。

(2) 之（これ）に加えてお勧めしたいのが、「教科書に出ている作品の著者の他の作品を何冊かじっくりと読むこと」です。

例えば、教科書で正岡子規の作品を学んだら、図書館や本屋さんに行って正岡子規の本を探し、何冊か読んでみることです。

岩波文庫だけでも、正岡子規には「病状六尺」「墨汁一滴」「仰臥漫録」「子規句集」「飯待つ間—正岡子規随筆集—」「歌よみに与ふる書」などの作品があります。

(3) 学校の教科書に出ている作品の全文や、著者の作品を何冊か読むことは、言語能力の一つである「読む力」を大きく育てます。

8. その第三は、「新聞を読むこと」と「ラジオやテレビのニュースを聞いたり見たりすること」です。

(1) 新聞は、毎日読むこと。家で新聞を購読していない場合は、学校の図書室や町の図書館、近くにある大学の図書館にどんどん行き、新聞を読むことです。

ごく一部を除き、ほとんどの大学の図書館は入り口で手続きさえ済ませれば、誰でも利用できます。



新聞には、地域や日本、世界の出来事がたくさん載っていますので、世の中の動きがよくわかります。スポーツや健康、文化や科学、趣味のページも充実しています。読書欄や投書、人生相談のページもあります。一面の下の方には、その新聞社で文章の上手な何人かの人が毎日執筆する「コラム」があります。朝日新聞の「天声人語」や読売新聞の「編集手帳」などです。2面には、新聞社としての意見をまとめた「社説」があります。

新聞を読むと、言語能力の基礎になる「自分で考える力」「批判的思考能力」が育成されます。「読む力」と「考える力」が大きく育ちます。

(2) 「ラジオやテレビのニュースを聞いたり見たりすること」も、新聞と同じく、地域のこと、日本のこと、世界の動きを知るのにとっても役に立ちます。言語能力の一つである「聞く力」を大きく育てます。



新年度ですので、是非お取り組みください。